

その後の筋骨格系 TAG の進捗状況

日本整形外科学会 ICD-11 検討委員会 委員長 望月一男

WHO の制定による疾病、傷害および死因統計分類である ICD 分類の ICD-11 への改訂について、筋骨格系 TAG における 2009 年 1 月以降の進捗状況を報告いたします。

筋骨格系 TAG (Topic Advisory Group, 分野別専門部会) 承認後の経緯

2008 年 10 月筋骨格系 TAG 新設の正式承認を受けて、国分正一運動器の 10 年国際委員会委員は、国際委員会委員長 Lars Lidgren 教授 (スウェーデン・ルンド大) および WHO 担当者と協議して、筋骨格系 TAG の構成メンバーの人選を進めました。この国際的な組織化は、メンバーの出身地域をバランスよく配置する必要がある困難な作業でした (WHO はサハラ砂漠以南のアフリカからもメンバーを要請)。

同時に WHO は、2009 年 4 月東京で開催予定の内科 TAG Face-to-Face Meeting と同時期に、筋骨格系 TAG も Face-to-Face Meeting を開催するようにと要請してきました。筋骨格系 TAG の承認から 5 ヶ月と日程が迫っていたため、国分委員が暫定的に筋骨格系 TAG Chair に就任することとなりました。

TAG の運営費は第 1 回 Face-to-Face Meeting までは日整会が負担し、以後は各国が分担金を拠出する形で運営するとの原則がまとまっています (Pay and Play)。

Face-to-Face Meeting に向けた委員会活動 (JOA 試案の作成)

日整会 ICD-11 検討委員会では筋骨格系 TAG 設立直後から、現行 ICD-10 分類の矛盾点を検討し、改訂案を提示する作業を、各委員に分担して開始しました。第 1 回 Face-to-Face Meeting における討議の叩き台とするため毎月委員会を開催し、English Version として本年 3 月末までに何とか作業を完了しました。

筋骨格系 TAG 第 1 回 Face-to-Face Meeting (2009 年 4 月 8-9 日・東京国際フォーラム)

今後の筋骨格系 TAG Chair は Sundberg 先生 (スウェーデン・ルンド大), Co-chair は Woolf 教授 (英国) と清水教授 (日本・岐阜大) の 2 名が担当することとなり、TAG 本部事務局はスウェーデン・ルンド大に置かれることとなりました。TAG 内の Work Group は 8 分野に決定し、以下のように担当することとなりました。

- ① Rheumatology; Anthony D. Woolf 教授, Prof. Peter Brooks (Australia)
- ② Paediatric Orthopaedics & Orthopaedic Infections; Prof. Nicolas M.P. Clarke (UK)
- ③ Orthopaedic Oncology & General Orthopaedics; Prof. Karsten Dreinhöfer (Germany)
- ④ Spine; 清水克時教授,
- ⑤ Trauma & Sports Medicine; Prof. Kenneth J. Koval (USA),
Prof. Jose E.R. Leite (Brazil),
- ⑥ Joints Except Rheumatology; Martin Sundberg 先生,
- ⑦ Osteoporosis - Fragility Fractures; Prof. Ghassan Maalouf (Lebanon),
- ⑧ Rehabilitation; Prof. Nicolas E. Walsh (USA)

その後の進捗状況と活動

- a. 委員会での作業実績 (JOA 試案, English Version) を、筋骨格系 TAG 新 Chair

Sundberg 先生に 5 月上旬送付しました (資料省略).

- b. 8つの分野のWork Groupへの日整会からの委員候補の推薦を6月上旬行いました.
- c. 腫瘍 TAG から厚労省 ICD 室を通じて国内委員の推薦依頼があり, 日整会骨・軟部腫瘍委員会から石井猛委員 (千葉県がんセンター) が推薦されました.
- d. 筋骨格系 TAG 本部が, Managing Editor として Dr. Annette W-Dahl (ルンド大看護スタッフ) を雇用しました (ジュネーブの iCamp への参加者も自動的に決定).
- e. 平成 21 年度第 2 回日整会 ICD-11 検討委員会/筋骨格系 TAG 組織委員会 合同委員会 (8 月 28 日) において, WHO ICD-11 HIM-TAG 専門委員/ 厚労省 ICD 専門委員/ 内科 TAG 国内検討会メンバー/ 東京医科歯科大情報医科学センター 中谷純准教授から, WHO ICD-11 改訂作業の現状についての講義を受けました.
- f. 筋骨格系 TAG 第 2 回 Face-to-Face Meeting (2009 年 9 月 25-27 日, ロンドン) に TAG Co-chair 清水克時委員, 国際 Work Group 協力員の加藤真介委員が出席/傍聴しました. この会議の結果, TAG の基本方針は ICD-11 検討委員会が行ってきた作業と同一線上となりました. さらに JOA 試案の Spine 分野が今後の規範となったことは, 委員会での検討結果が今後大いに生かされ, 日整会が期待する方向に改訂作業が進む可能性が大きくなりました. 主な合意事項を以下に示します.
 - ① 内科 TAG の Rheumatology Work Group と共同で作業を進める.
 - ② 筋骨格系 TAG は ICD-11 完成後もさらに 10 年程度活動を続け, 持続的に改訂を行う (ICD-11 完成後 ICD-12 は計画されず, ICD-2013 のような名称になる予定).
 - ③ WHO から示されている ICD-11 の作業内容の再確認. Chapter XIII (M) は全面的な構成変更を希望することとし, それが許諾されるか否かを WHO に問い合わせる. →WHO のご指導: 問題点は主張すべきとの由
 - ④ JOA から提案した Spine の改訂案を雛形とすること, Chapter XIII の Spine の項目の中に外傷を, Chapter XIX (外因) から移管するか, 連結させることを提案する.
 - ⑤ α 版完成前に筋骨格系 TAG 第 3 回 Face-to-Face Meeting を開催する予定 (2010 年 1 月 29-30 日, チューリッヒ).
- g. Osteoporosis - Fragility Fractures の Work Group の会議が 2009 年 10 月 4-6 日の The 2nd Meeting of the OFL Council (スウェーデン・ルンド) の会期中に開催され, 萩野浩 WG 委員が出席しました.
- h. 2009 WHO-FIC Network Meeting (2009 年 10 月 10-15 日, ソウル) に筋骨格系 TAG Co-chair 清水克時委員, 国際 Work Group 協力員の加藤真介委員・麩谷博之委員が出席/傍聴しました.

以上